

令和4年度 第1回桐生市総合戦略推進委員会 議事要旨

- 日 時 令和4年7月13日(水)午後6時30分～午後7時45分
○場 所 美喜仁桐生文化会館 スカイホールA
○出席者 26名

【委員】20名

委員長	群馬大学 副学長・大学院理工学府 教授	板橋 英之
副委員長	桐生市総合計画審議会 副会長職経験者	新居 理恵
委員	桐生商工会議所 会頭	靱山 和久
	桐生市農業委員会 会長	今泉 芳雄
	桐生広域森林組合 参事	栗原 和人
	桐生刺繍商工業協同組合 会計理事	松平 朋憲
	群馬県桐生みどり振興局 局長	田島 聡緑
	桐生市立商業高等学校 校長	田嶋 正幸
	桐生信用金庫 専務理事	松島 修
	足利銀行 桐生ブロック統括支店長	矢島 雅照
	群馬銀行 桐生支店長兼桐生南支店長兼あいおい支店長	島田 直樹
	桐生公共職業安定所 所長	久保田 政夫
	(株)桐生タイムス社 取締役事業推進室長	小澤 義明
	桐生市区長連絡協議会 第3区長	茂木 新司
	桐生市社会福祉協議会 常務理事	大木 茂雄
	(一社)きりゅう市民活動推進ネットワーク 理事長	近藤 圭子
	NPO法人キッズバレイ 代表理事	星野 麻実
	桐生市PTA連絡協議会 会長	佐藤 勇氣
	桐生市婦人団体連絡協議会 体育振興部担当	間中 一枝
	2015年からの生活交通をつくる会 会長	佐羽 宏之
<欠席者>		
	桐生商店連盟協同組合 副理事長	茂木 理亨
	桐生市医師会 理事	東郷 望
	一般社団法人桐生青年会議所 理事長	深澤 佑太

【桐生市】6名

	市長	荒木 恵司
	副市長	森山 享大
<事務局>	桐生市共創企画部長	新井 利幸
	桐生市共創企画部企画課長	西條 敦史
	桐生市共創企画部企画課企画戦略担当係長	森下 英明
	桐生市共創企画部企画課企画戦略担当	伊藤 美和子

- 報道関係 2社
○傍聴者 なし

○会議内容

1 開 会 [開始：午後6時30分]

- ・事務局から、全員の委員の出席により会議が成立することを報告。

2 委嘱状の交付

- ・荒木市長より委員へ委嘱状を交付。

3 挨拶

- ・荒木市長から挨拶。

4 委員長及び副委員長の選出

- ・委員の互選により、委員長に板橋委員を選出。副委員長は委員長の指名により、新居委員が選出。

5 議 題

(1) 令和4年度総合戦略事業の概要について

- ・資料1から4に基づき、事務局から説明。
- ・意見、質疑応答は以下のとおり。

委員長	資料ごとに質問を受け付ける。 まず、資料1について意見がある方は挙手をお願いしたい。
	意見なし
委員長	では、次に資料2から4までの令和4年度総合戦略事業について、基本目標ごとに区切りながら順次ご意見を伺いたい。 まず、「基本目標1 地域の資源を活用した魅力ある雇用を創出する」について、いかがか。
委員	黒保根の地域おこし協力隊の活動拠点として旧黒保根共同調理場を活用するとあり、資料4の実施計画を見ると約130万円計上されているが、今年度既に動き出しているのかどうか教えていただきたい。
事務局 (課長)	今年度より既に動き出している。
委員	雇用を創出するという面で見ると、誰もが考える一番簡単な方法は工業団地の造成だと思うが、現在、桐生市は工業団地が全て売り切れたということなので、新たな工業団地を造成して雇用を創出していくべきだと考える。
市長	桐生武井西工業団地が完売した後、工業団地に関する調査を行っており、新たな工業団地に入りたいという要望もある。県と協議しながら新たな工業団地の造成について検討してまいりたい。
委員長	他に意見はあるか。

	意見なし
委員長	<p>それでは、次に「基本目標2 人口の市外流出に歯止めをかけ、移住・定住を促進するとともに、交流人口の拡大による地域の活性化を目指す」について、いかがか。</p> <p>私の方から1点よろしいか。</p> <p>先ほども地域おこし協力隊の質問があり、ワーキンググループにも関係してくると思うが、地域おこし協力隊の活動について教えていただきたい。</p>
事務局 (課長)	<p>現在、黒保根、新里、シルクル桐生に配置されている。新里では、農業の6次産業化に関する活動を行っており、ドローンによる農薬散布等の研究も行っているところである。黒保根については、先ほど説明にもあったが、旧黒保根共同調理場を活用し、6次産業化による商品開発など色々な活動を行っている。シルクル桐生については、物産販売を行いながら、観光振興に関する様々な活動を行っているところである。</p>
委員	<p>基本目標1に戻るが、現在、商工会議所では、目指せ「小さな世界都市」ということで、小さくとも個性が光り、世界に誇る中小企業を増やしていきたいと考えており、経営相談員による支援を行っているところである。</p>
委員長	<p>私からもよろしいか。現在、群馬大学は商工会議所と連携し、PBL教育を始めており、学生を桐生市の企業に派遣して、企業と一緒に教育を行っている。これまで市外の企業に就職してきた学生を、市内企業への就職につなげ、市内に住んでもらうことで、雇用の創出、移住・定住の促進につなげていきたいと考えており、PBL教育と連携した取組が何かできるといいと思うので、お願いしたい。</p> <p>他に何かご意見等はあるか。</p>
	意見なし
委員長	<p>それでは、「基本目標3 安心して結婚・妊娠・出産・子育てができるよう、若い世代の希望をかなえる」について、いかがか。</p>
委員	<p>ヤングケアラーについて、実態把握はどこまで進んでいるのか、また、ヤングケアラー研修会の内容について教えていただきたい。</p>
事務局 (課長)	<p>ヤングケアラーの実態把握については、現状難しいところであり、あまりできていない状況である。</p> <p>ヤングケアラー研修会の内容については、早期発見につなげるための研修会であるが、具体的な内容は手元に資料がない。</p>

委員	現状は分かった。これから教育現場など含めて色々な場面に出てくるのだと思う。
委員長	<p>他に何かあるか。</p> <p>特色のある教育の充実というところでは、サイエンスドクター事業や未来創生塾など桐生ならではの教育が展開されていると思うが、更なる教育の充実につながるようなご意見があればいただきたい。</p> <p>また私から1つよろしいか。</p> <p>現在の高校1年生が受けることになる2025年の大学入試の共通テストから、プログラミングなどを含む情報Ⅰの科目が導入される。しかしながら、県内の県立高校では、情報の専門の教員が1人しかおらず、なかなか情報教育ができないということで、群馬大学では、eラーニングシステムを使って情報のプログラムを作ろうと考えている。そこで、最初に桐生市をモデルにして導入したいと考えており、商業高校等とも連携してできたらいいと思う。また、桐生に新しくできた会社「ノッティングヒル」のように、可能であれば、大学生がプログラミングを教えるようなことができるといいなと思っているところである。</p> <p>いずれにしても、情報を教えられる人材が桐生にはたくさんいるので、そのような人材を活用して、桐生ならではの情報教育をやっていただけたいと思っている。</p> <p>他に何かあるか。</p>
	意見なし
委員長	それでは、「基本目標4 広域的な視点かつ将来を見据えた地域の特徴に応じたまちづくり」について、いかがか。
委員	重伝建を整備することのだが、具体的にどこをどのようにするのか、現在分かっていることを教えていただきたい。
市長	<p>現在、県と協調しながら、令和5年度までに電線の地中化を実施するとともに、本町1、2丁目の車道及び歩道を整備することで、調和のとれたまち並みづくりをまず第1歩として行っているところである。</p> <p>それから、本町1丁目に眞尾邸という建物があり、この建物を、様々な形で色々な人たちが情報提供に訪れたり、観光の情報を得られたりするような、重伝建地区の拠点として整備していく。</p> <p>また、以前より課題となっていた公衆トイレについても、設置に向けて前向きに検討してまいりたい。</p>
委員	交通ビジョンの策定について、交通ビジョン推進室が新設されたという1つ進歩があったと思うが、これは交通弱者の話ではなくて、桐生市民全体の生活交通の話なので、地元のローカル線の補助など、そういった狭い範囲ではなくて、

	<p>「ゆっくりズムのまち桐生」につながるような、日本かつ地球が持続可能になるかどうかというスタンスに立ったビジョンを作っていただくことが非常に重要ではないかと思う。</p> <p>過日わたらせ渓谷鐵道の株主総会があり、地元紙に報道された内容を見ると、観光でやっていくというような内容に書かれており、株主の意図がきちんと通じたのか非常に疑問を感じたのだが、地域における移動手段の位置づけを交通ビジョン推進室においてきちんと練り、取り組むことが非常に重要だと思うので、十分な取組を期待しているところである。</p>
市長	<p>委員には、常に公共交通についてご助言をいただき、誠に感謝している。特に「ゆっくりズムのまち桐生」の宣言については、単純にスローモビリティ・スローライフだけではなくて、地域課題の解決、ゆったりとした時間の中で人と人々が触れ合う機会の創出、地球温暖化の防止、持続可能な社会の実現に向けてというような、大きい大前提の中で進めてまいりたい。</p> <p>また、以前県が策定した群馬県交通まちづくり戦略では、「まちのまとまりを作り、公共交通でつなぐ」という大きな理念があり、その県の理念と整合性を保ちながら、桐生市の交通ビジョンについても、少子高齢化が進む中で公共交通はどうあるべきかという根本的な部分を検討してまいりたいと思っているので、委員には引き続き専門的な見地からご助言いただけると有難い。</p>
委員	<p>「施策の方向性3 地域連携の推進と交通基盤の整備」について、我々林業団体においては、おかげさまで、桐生木材ヤードという施設を梅田町4丁目の皆沢という地域に整備していただいた。皆沢から1キロくらいですぐ隣の栃木県佐野市、旧田沼町に出るのだが、群馬県側は道が整備されているが、栃木県側は急カーブで道が細くなっており、足利のゴルフ場を抜けると道が広がる。そこから足利インターまでは信号もなくアクセスも良いので、林業としては木材を栃木県方面へ運ぶのに使いたいが道が狭くてなかなか使えないということと、また、足利インターから降りた人が、例えばゴルフの帰りに桐生に寄ってみようと山から下に降りて、そうすると重伝建地区があるので、循環できるような道になるのかなと思う。我々の団体とすると、営業として材木を他県にも運搬したいが、道が狭いので、桐生の市街地に1回降りてから栃木県に回ったりしているが、栃木県側に働きかけるような考えはあるか。</p>
市長	<p>皆沢の木材ヤードについては、ご指摘のとおり、飛駒から足利インターに抜ける道は結構道が狭かったり、カーブが急だったり、少し問題があるかなと思っていた。栃木県との協議については、日頃から群馬県知事には、様々な形の中で要望をできるような立場にあるので、栃木県知事に協力していただくことはできないかという願いはしたいと思っている。</p>
委員	<p>バスロケーションシステムについて、ご存じない方が多いと思うが、とても分かりやすい。ただ、スマホを使うので、高齢者は難しいかなと思う。あとは観光客に乗り継ぎを聞かれるので、確認していなくて申し訳ないが、バス停などにQ</p>

	Rコードがシールなどで貼ってあると、それを読み取れば次のバスが何時かというの分かるので、もっと便利になると思う。
事務局 (部長)	バスロケーションシステムについては、7月1日からスタートしたところであり、QRコードをバス停など色々な場所に設置している。また、車内などできるだけ多くの場所に設置して利用しやすいようにしたいと考えている。今後ともご意見をいただいて改善してまいりたい。
委員	<p>基本目標2に戻るが、シティブランディングの推進において、商工会議所では桐生そのものをブランディングしようということ動いており、どのようにブランディングしていくかということについては、クラフトのまち桐生を推進している。そのような中、桐生市の観光については、歴史もあり、自然もあり、産業もあるが、何といても桐生はものづくりのまちであり、オープンファクトリーを産業観光としてしっかりやっていきたいと思っており、市から助成をいただいて非常に有難いと思っている。</p> <p>また、動物園のレッサーパンダの導入は素晴らしいと思っており、この前行ったなら多くの人いた。私はもう少し進めた方がいいと思っており、「可愛い動物園」というふうに、これから動物を入れ替えていく際に可愛い動物を揃えていき、独自性を持った動物園にすれば、集客をどんどん増やせるのではないかなと思う。</p> <p>それと、市の方で重伝建群を観光の拠点にするということ動いており、それは確かに素晴らしいことであるが、それだけでは観光として広げられないのではないかなと思っており、そこにクラフトの工房を集めてクラフトロードのようなものができる素晴らしいのではないかなと思う。先日岡山県の児島に行ったが、そこはジープのまちで、初めは2件だったお店が、今ではすごい数のお店が並んでおり、ジープを買うために全国から人が来るそうだ。桐生もそのような形で、オープンファクトリーをする中で、作っているところを見ながら買ってもらうような拠点をたくさん作っていただけたら有難い。</p> <p>最後に、基本目標4になるが、コンパクトシティは行政でしかできないことなので、何としてもやっていただきたい。後になってあちこちに生活の拠点が点在していたら困ってしまうので、アクセスが整っている所にしっかりと拠点を集めてほしい。</p>

(2) 桐生市総合戦略推進委員会ワーキンググループの検討状況について

- ・資料5に基づき、事務局から説明。
- ・意見、質疑応答は以下のとおり。

委員	私は、日本は戦争ではなくて人口減少で滅びるのではないかと危惧している。子どもを産んで育てることに対する負担軽減がどれだけできるかが大事になり、市で一生懸命やっていただいていることはよく分かるが、それだけでは難しいと思っているので、県や国へ要望することも含め、予算を確保することが必要だと思う。
----	--

委員長	最近、起業したいという大学生が増えてきた。今般のPBL教育もそうだが、桐生は起業する場所としてすごく良い場所だと思っており、桐生で起業させたいと思っている。そのためのワンストップ窓口は大変良いと思うので、是非推進していただきたい。
-----	---

(3) 桐生市総合戦略推進委員会の今後の進め方について

- ・資料6に基づき、事務局から説明。
- ・意見等はなし。

(4) その他

<意見交換>

委員	総合戦略を進めていく上で、総合戦略がどのようなものなのか、どのような取組をしていくのか、市民がイメージできるようなものを作っていく必要があると思う。
委員長	ポンチ絵のような感じで、ビジュアル的にイメージできるものということか。
委員	そうである。
事務局 (課長)	ボリュームがある内容なので、一目で分かるようなポンチ絵はなかなか難しい所ではあるが、「資料2 第2期桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略 概要版」ができるだけ簡潔にしたものになり、会議資料として毎回市のホームページに載せているところである。更に分かりやすい見せ方については、今後研究してまいりたい。
委員長	大学でもそうだが、文部科学省が作成する資料は文字が多く分かりづらいが、民間が作成すると比較的絵や図が多く分かりやすい。もしかすると、デザインの仕事をされているような方に見てもらい、これが桐生市の総合戦略だと分かるものが作れるといい。これは事務局だけでは難しいと思うので、民間の力を使って検討していただければと思う。

6 その他

- ・事務局から、次回の開催日程について事務連絡。

7 閉会 [終了：午後7時45分]